

里海ガイド養成講座(実践)

開催しました！

- 日時 令和5年11月26日(日) 9:00~16:00 / 第1回目
令和5年12月3日(日) 9:00~16:00 / 第2回目
- 場所 公洲森林公園(高松市東植田町) / 第1回目
津田公民館北山分館(さぬき市津田町津田) / 第2回目
- 講師 横山 昌太郎 氏(森のガイド) 森田 桂治 氏(NPO 法人アーキペラゴ理事)
松野 陽平 氏(絆創工房代表) 小前 昭二 氏(Free Cloud代表)
- 受講者数 10名

◆実施概要

里海ガイド養成講座(応用)の修了者を対象に、ガイドングにおける体験、座学、実践を交え、メインガイドとして里海づくり活動を行うためのスキルアップを目的とし、「里海ガイド養成講座(実践)」を開催しました。

【第1回目】

11月26日(日)に、第1回目の講座を公洲森林公園で開催しました。午前は、横山氏がガイドとなって公洲公園を散策し、実際のツアーを体験しました。受講生はツアーを楽しむ一方で、ガイド目線でツアーの流れや内容、ガイドの話し方や動きなどを確認していました。ツアーの最後には、「見過ぎ世過ぎは草の種」という言葉を紹介いただき、「植物の種」をテーマにしたツアーから樹木や鳥など動植物の生きかた・いのちのつながり方を学び、さらに森や自然から私たちにとっての本当の幸福や生き方について学びや気づきを得ました。



ツアー体験(野鳥観察)



ツアー体験(ユーカリの木)

午後は会議室に戻り、横山氏より“インタープリテーションにおけるTORE”と題した講義がありました。ガイド活動の際に、分かりやすく面白さを伝える方法の一つにインタープリテーションという技術があり、その中の4つの要素、①テーマがある(Thematic)、②わかりやすく構成・整理されている(Organized)、③お客様と関連がある(Relevant)、④楽しめる(Enjoyable)の4つの頭文字をとった「TORE」について具体例を用いながら解説していただきました。

続いて、ツアーを振り返っての感想と質問を一人ずつ発表し、ツアーづくりの方法、ガイドの際の話の組み立て方、ツアーの準備物など、受講生からたくさんの質問が寄せられました。

最後に、グループに分かれ、自分の目指すガイド性やスタイルについて意見交換を行いました。今回のツアー体験を振り返り、「以前に自分自身で企画したツアーの反省点や改善点が整理された」、「教えるといったことよりも参加者と一緒楽しむツアーをつくりたい」などの感想があり、講座を通じて自分自身の目指す方向性が明確になったようです。



座学



グループで意見交換

【第2回目】

第2回目は、12月3日(日)に津田公民館北山分館で開催しました。午前には、自分が目指すガイド像に近づくための実践として、会場周辺のフィールドを使用して3分ガイドを実施しました。

はじめに、受講者は会場周辺のフィールドを散策して解説する対象を選び、内容をTOREに則って組み立てました。海岸にあるものを使った「カキのまめ管」「砂浜の貝」、海岸から見える「島の名前の由来」、離島の海岸をイメージして行った「蛸壺漁」、葉っぱを用意して行った「葉脈スケッチ」など、受講生はそれぞれ個性あふれるガイドを披露し、参加者役に回った受講生や講師は3分ガイドを楽しんでいました。



3分ガイド(島の名前の由来)



3分ガイド(葉っぱの葉脈スケッチ)

講座の後半は、ガイドの様子をビデオで振り返り、ガイドとして感じた特徴やTOREの要素について気づいたことについて意見交換を行いました。講師より、話し方や雰囲気づくり、話の構成や立ち振る舞いなどについてアドバイスがありました。受講生も自分自身のガイドを動画で見たり、フィードバックを受けて今まで気が付かなかった課題が見えてきたり、ガイドとしての自信につながったようです。

最後の質疑応答では「講師がアドバイスするにあたって見ているポイント」、「説明が長くなるようにする方法」、「ガイドを始めたきっかけ」、「ツアー参加者の興味を引く方法」などたくさんの質問が寄せられ、講師の方々からアドバイスをいただきました。

2日間の講座を終え、講座終了後のアンケートでは「自分自身を考えるととても貴重な経験ができた」、「自分のなりたいガイド像を発見できた」などの感想が寄せられました。



ビデオで振り返り



意見交換



質疑応答



集合写真